

第53回 令和7年

新潟県指定無形民俗文化財

三条かぐら鑑賞会

日時 10月5日（日）午後1時開演

会場 三条市中央公民館大ホール



主催 三条市・三条神楽保存会

後援 新潟県、新潟日報社、
株式会社三條新聞社、NCT、
ケンオー・ドットコム合同会社

プ ロ グ ラ ム

1	開会のことば	三条神楽保存会会長	岡田 一栄
2	主催者あいさつ	三条市長	滝沢 亮
3	かぐらの演舞	(解説) 神明宮禰宜	三上 正行
	(1) 宮清の舞	田 島	諏訪神社
	(2) 地久楽の舞	保 内	小布勢神社
	(3) 悪魔祓の舞	塚野目	白山神社
	(4) 大鉦の舞	大 崎	中山神社
	(5) 羽返の舞	大 崎	中山神社
	(6) 花献の舞	田 島	諏訪神社
	(7) 太平楽の舞	三 条	八幡宮
	(8) 鳥形の舞	一ノ木戸	神明宮
	(9) 杵樹の舞	一ノ木戸	神明宮
4	閉会のことば	三條市市民部長	長谷川 考基

三条神楽が見られる日と場所（奉納日程）

八 幡 宮 (三条市八幡町 12 番 18 号)

春季本祭 5月16日 午後 秋季本祭 9月15日 午後

神 明 宮 (三条市神明町 3 番 9 号)

春季宵宮 4月28日 夜 春季本祭 4月29日 午後、夜

秋季宵宮 9月22日 夜 秋季本祭 9月23日 午後、夜

献灯祭 1月14日 夜

諏 訪 神 社 (三条市田島二丁目 11 番 9 号)

春季宵宮 本祭りの前日 夜 春季本祭 4月第2日曜日 午後

秋季宵宮 本祭りの前日 夜 秋季本祭 9月第2日曜日 午後

白 山 神 社 (三条市塚野目五丁目 16 番 14 号)

春季宵宮 4月17日 夜 春季本祭 4月18日 午後

秋季宵宮 本祭りの前日 夜 秋季本祭 9月最終日曜日 午後

中 山 神 社 (三条市西大崎二丁目 23 番 16 号)

春季宵宮 本祭りの前日 夜 春季本祭 4月第3日曜日 午後

秋季宵宮 本祭りの前日 夜 秋季本祭 9月第3日曜日 午後

小布勢神社 (三条市上保内丙 1288 番地)

春季宵宮 4月14日 夜 春季本祭 4月15日 午後

秋季宵宮 本祭りの前日 夜 秋季本祭 敬老の日 午後

1 みやきよ 宮清の舞

田 島 諏訪神社



あめのこやねのみこと
天兒屋根命の神楽として、天の岩戸の変で起こった神話に基づいています。

神々を祓い清めるために、木を抜く動きや祝詞の唱え方を模した動きがあります。舞の顎部分は、祝詞を唱えながら舞っている様子を表現しています。

天兒屋根命は、天孫降臨で中臣氏の祖となりました。この神楽は主に春日大社で祭られています。

2 ちきゅうらく 地久楽の舞

保 内 小布勢神社



天地長久を祝して、あめのおしひのみこと天忍日命が天岩戸の大前で、天地とともにみんなの安全を祈ったことに由来する舞です。

また、この舞は能狂言の「さんばそう三番叟」の装束で鈴をもって舞う形が、それに似ていることから、俗に「さんばさ」とも言われています。

3 あくまばらい 悪魔祓の舞

塚野目 白山神社



ふつぬしのかみ
経津主神の神話を基にした邪気を祓う舞です。経津主神は天孫降臨に先立って地上に降り、荒ぶる神を鎮めたとされますが、なぜ単独で舞うかは分かりません。

しかし、経津主神は藤原氏の氏神であり、春日大社や香取神宮の御祭神として重要視され、武神としても有名です。舞は踏み締めを意味する前半と、刀を抜いて激しい動きで荒ぶる神を祓う後半に分かれ、神曲と共に舞われる神楽です。

4 おおぼこ 大鉾の舞

大崎 中山神社



くしいしまどのかみ
櫛石窓神が、天孫降臨に先立ち、
おもいがみのかみ 思金神、たちからおのかみ 手力神と共に、中津国の荒ぶる神たちを、鉾をもって鎮圧したことに由来すると言われる舞です。

なお、この舞を「地鎮の舞」(または「とこしずめの舞」)ともいい、鉾の霊力を表徴するのがこの舞です。

5 はがえし
羽返の舞

大崎 中山神社



稚児4人舞です。天岩戸の変の時、岩戸の前で羽根扇を両手に持ち、大神のおでましを一時も早くと、国土四神に、岩戸前に参集なされた神々が祈りを捧げられた事に由来する舞です。

6 かけん
花献の舞

田島 諏訪神社



稚児4人舞です。時の花を神に捧げる意味のものと思われませんが、にぎのみこと邇々芸命をかささ笠沙の岬にお迎えして、命の苦勞をおなぐさめ申したことに由来する舞であるとも伝わっています。

7 ^{たいへいらく} 太平楽の舞

三 条 八 幡 宮



天の岩戸の変の時、岩凝姥命^{いしこりどめのみこと}が天の金山の鍬で八咫鏡^{やたのかがみ}を造り、その完成を祝ったという故実による舞です。

この舞には別名が多く、「鏡づくり」「盆舞」「日月」などの呼び方があります。

「鏡づくり」は、^{やたのかがみ}八咫鏡を作ったということから、「盆舞」は、採物が盆であることから、「日月」は二枚の盆を日と月にみたててこの名があります。

8 ^{とりかた} 鳥形の舞

一ノ木戸 神 明 宮



天岩戸の変の折、思金神^{おもいかねのかみ}の計らいにより夜明けを告げる常世の長鳴鶏を鳴かしめられました。天照大神は岩戸の中であって、朝を告げる長鳴鶏が鳴き、神々が笑いさざめいていることを不審に思われ、岩戸の扉を少し開けて外をのぞかれようとした時に、^{たちからおのみこと}手力男命が岩戸のすき間に手をかけ、扉を開き大神をお出し申し上げました。

この舞は、その故事にならい、常世の長鳴鶏をかたどって舞われる舞で、動作には鶏の生態をそのまま写し出している所が多く見られます。

一ノ木戸 神明宮



2人で舞います。中津国の荒ぶる神たちを鎮めるべく、弓矢を持つ武甕槌命たけみがづちのみことが天下り、火の神迦具土命かぐつちのみことと協力して中津国の安泰を図ったことにもとづく、天長地久四方泰平を祈る舞いです。

弓矢は武力による邪悪の平定を意味し、杵と飯しゃもじは、食を十分に与えて民の生活を豊かにすることを表しています。

三 条 神 楽 の 由 来

三条神楽は、出雲神楽系統に属する神楽です。出雲神楽は、岩戸開き神話を中心とし、その他古くから出雲大社に伝わる神事や、神社の縁起を新たに取り入れ演じられた神楽です。その出雲流の神楽が、山陰から北陸を経て三条の地に伝えられたものと考えられます。

江戸時代の文化8年（1811）には、三条（八幡宮）で神楽が舞われていたことが、古記録に残っていることから、その起源はさらに遡るものとみられます。

ふつう5舞か7舞を伝えるものが多いなかで、三条神楽は32舞も保存されていて、たいへん珍しいため、昭和38年3月、県の無形民俗文化財に指定されました。

このようにすぐれた郷土芸能を、広く市民のみなさんから知っていただき、後世に伝えるため、三条市および三条神楽保存会では、後継者の育成に努めています。研修会や講習会などをおして研鑽を重ねる一方、ビデオや映画に収録したり、本にまとめたりして、当市の伝統芸能の保存をすすめています。

新潟県指定
無形民俗文化財

三条神楽32舞の演目

1 先稚児の舞	9 鳥形の舞	17 天川の舞	25 杵樹の舞
2 宮清の舞	10 羽返の舞	18 奉幣の舞	26 宝剣作の舞
3 悪魔祓の舞	11 岩戸開の舞	19 小弓遊の舞	27 深山錦の舞
4 鎮護鉾の舞	12 地久楽の舞	20 四神の舞	28 神勇の舞
5 久奈戸の舞	13 稲田宮の舞	21 五行の舞	29 五ツ刀の舞
6 五穀撒の舞	14 榊の舞	22 大鉾の舞	30 三座返の舞
7 五穀捧の舞	15 花献の舞	23 天孫降臨の舞	31 宮司舞
8 太平楽の舞	16 福神遊の舞	24 末広の舞	32 乙女舞